

運営推進会議開催報告書

下記事業所について、次のとおり運営推進会議を開催したことを報告します。

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
サービス種別	看護小規模多機能型居宅介護		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 開催日時・場所

日時	令和 2年11月13日13時30分 ~ 14時	場所	医師会館理事長室
----	-------------------------	----	----------

3. 出席者

氏名	分野	備考(所属・従事経験など)
木下 均	地域住民の代表者	牛久保西町内会 会長
井澤 一成	当該サービスに知見を有する者	中川地域ケアプラザ 所長
堀元 隆司 (欠)	当該サービスに知見を有する者	堀元歯科医院 院長
斉木 和夫	当該サービスに知見を有する者	斉木クリニック 院長
小林 雅子	当該サービスに知見を有する者	小林クリニック 副院長
小川 憲章 (欠)	当該サービスに知見を有する者	小川メディカルクリニック 院長
栗山 慶美	市の職員又は地域包括支援センターの職員	都筑区役所 高齢者支援課係長
大山 学 (欠)	法人代表	
吉井 涼子 (欠)	管理者	
宮島 佳代	看護主任	
石濱 千秋	計画作成者	
箕輪 善果	看護リーダー	
青柳 かおる		
後藤 瑞佳	事務	
加藤 萌子	事務	

4. 活動状況報告

別紙(様式2~4)のとおり

5. 活動状況に関する評価・意見・要望

1)活動内容について

意見や質問 : ・コロナの影響はでているのか? 問い合わせ件数や通所が増えてるとか。

・コロナになった人はいないのか

・クリニックは患者が減っている

回答 : 現在のところ、コロナに感染した職員や利用者はいない。

コロナの影響は、入院すると面会ができなくなるので、NHも訪問看護も利用者は減っていない。

2)事例紹介

テーマ: 医療的ケアの多い非がんの終末期支援

支援経過: 退院当日、家族のケア方法の習得が十分ではなかったことや介護負担が大きいと、まずは、当面の療養生活が成り立つように、ケア方法を再指導し、ケア内容の役割分担などを行った。

退院5日後、発熱し、痰の量が増え、酸素飽和度80%台に低下し、「誤嚥性肺炎」にて、急遽NHでの連泊となる。A氏から、「お腹が空いた」「おにぎりが食べたいから用意して欲しい」「コーヒーが飲みたい」などの要望が続き、家族は食べさせており、肺炎予防に努め支援した。退院から一月後、妻より自分の時間が欲しい、娘より、母の介護負担が大きいので、NHでの泊りを増やして欲しい。長期療養できる施設を探したいと要望みられたが、退院1か月半ごろから、徐々に意識混濁となり眠る時間が増え、介護負担は軽減し、最期は、自宅で家族に見守られながら永眠された。

支援1. 誤嚥性肺炎の予防と対応

支援2. 本人の望みを実現するための支援

支援3. 在宅療養継続のための支援

支援4. 看取りの支援

支援結果: 1. 痰の吸引が定期的に必要だったが、泊まりや訪問看護の回数を増やすことで、家族が頑張れる範囲で最期まで在宅療養の継続ができた。

2. 肺炎のリスクを説明し予防を図りながら、本人の食べたいという欲求、本人の望みを叶えてあげたいという家族の思いの実現ができた。

3. 本人の「自宅にいたい。家族の顔が見える場所で過ごしたい。」という思いが実現できた。

意見: ・人生会議ACPやられているか? 急変もあるし、緊急時の対応の意思確認、皆さんと連携を取っていく大事さを、この頃感じている。入所した時に、急変した時、亡くなった時どうするか確認する決まりはあるのか?

⇒登録時に書面で緊急時はどうするかなどを確認している。また病状も変わっていくので、病状進んで、亡くなる少し前に、看取りの同意書もらうが、家族の状態もみて、その都度確認している。

残された時間はどのくらいか、徐々に家族や本人がどう過ごしていきたいかを投げかけて、気持ちの変化もあるので、確認している。

・契約時に緊急搬送をするか決めている?

⇒救急搬送をするか、主治医に任せるかなどの意思確認をしている。

・看多機は、利用者・家族への説明が普通の方よりも難しいと思いますが、どなたが、契約時に説明するのですか?

⇒ケアマネが説明している。契約時は、状態が悪くなくても、サービス中に急変もあるので、契約時に確認をしている。勿論、時間の経過とともに家族の考えが変化するときには、その都度確認する。

6. 評価・意見・要望に対する考え・取組

上記、5. 活動状況に関する評価・意見・要望 と一緒に記載

7. 地域からの情報提供

特になし

8. その他特記事項

2か月ごとの会議は、紙面会議やオンライン会議の方法もあるので、参加者に確認したが、次回も参集会議予定となった。

※ 会議は原則事業所内で行ってください。

やむを得ず他の場所で開催する場合、必要に応じて事業所内の見学を行ってください。

活動状況報告書(小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護)

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 登録者の状況

登録者数(10月 31日現在)	女性 6名	男性 9名	計 15名
------------------	-------	-------	-------

要介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
	名	名	0名	2名	1名	3名	9名

3. サービス提供回数(会議開催の前月分)

登録者 (匿名)	通い	泊まり	訪問	備考(入所日、退所日など)
ア	22	0	1	1(訪問看護回数)
イ	14	0	27	17
ウ	12	1	32	1
エ	9	0	0	3
オ	24	23	0	45 死亡:10/24
カ	9	0	50	2
キ	8	0	10	3
ク	31	27	7	4
ケ	22	19	33	77
コ	26	22	9	3
サ	8	6	10	42 死亡:10/15
シ	8	5	3	22 入院:10/13~11/11
ス	10	1	0	11
セ	11	1	26	0
ソ	3	1	3	4 開始:10/24
タ				
チ				
ツ				
テ				
ト				
ナ				
ニ				
ヌ				
ネ				
ノ				
ハ				
ヒ				
フ				
ヘ				
平均	14.5	7.1	14.07	

4. 運営方針

事業所の目標	(法人の理念、長期目標、月間目標など) 【利用者の獲得】1.適切な職員の確保と黒字転換 2.「ケアの理念」の実現 「ケアの理念」:その人の「生きる」を支える。寄り添い、理解し、尊重する
目標に向けた 具体的取組	1.求人活動と既存の職員が充実した仕事ができ辞めないようにする 2.三蜜にならないような情報の共有を行う 3.利用者や家族の意向を反映した多職種でのケアプランの作成と共有を行う 4.地域に向けた研修計画の実施

5. 活動報告

【9月】	入職者オリエンテーション 運営推進会議 安全衛生委員会・管理者会議 運営会議
【10月】	安全衛生委員会・管理者会議 運営会議

6. 事故・ヒヤリハット報告

内容	経鼻胃管の利用者、通常、看護師は注入前のエア音の確認と薬剤注入を行っている。当該利用者の朝の栄養剤は看護師が注入していたが、その認識がなかった。お昼に捺印のない事に気づき分かった。 【対応】家族に謝罪し、昼夕の注入とし、水分を調整し一日分を注入した。
改善策	・役割の確認をした。 ・看護師が忘れないように、アラームをセットし、「注入」のマグネットを作った。

内容	当該日は実績ファイルの中に、「看護小規模多機能型居宅介護計画書」がファイルに入っていたので、家族との連絡ノートに挟んだ。帰宅後、サービス記録書1枚がない事に気づく。計画書をノートに挟んだ際に、一緒に記録書1枚を置いてきてしまった。 【対応】ご家族に連絡し、記録書が間違っ一枚置いてあることを伝え、後日、回収した。
改善策	・サービス記録書と利用者に渡す書類は、別々のクリアファイルに入れるようにする。 ・サービス記録書は、複数枚になる場合はホチキス留めをする。

内容	当該利用者は、入浴後にセキュラ(保湿剤)を塗布していたが、担当者が戻すのを忘れ、その直後、別の利用者の入浴介助をしたスタッフが、名前を確認せずに荷物に入れてしまった。帰宅準備の時にセキュラがない事が分かった。
改善策	・必ず名前を確認する。 ・脱衣所に専用ケースを準備、入浴後に薬等の戻し忘れがないか、ケース内を確認する。

内容	訪問時に、「お薬カレンダー」から、月曜日の昼の分を取り出し、本人に渡し、フローシートに記載した。翌日、家族より指摘があり、水曜日昼の分から取り出していたことが分かった。原因は薬カレンダーは月曜日から始まっていると思い込んでいたが、実際は、水曜日から開始になっており、3食後、全て同じ内容で薬包には日付は印字されていなかった。同行訪問時には、水曜日からスタートしていることを教えてもらっていたが、この時は、思い出せなかった。
改善策	・日付、曜日、基本的な確認を怠らない。

内容	入浴介助時に、ストレッチャーで浴槽移動時に、体の下に敷いてあったバスタオルを、ユニバスのタンク上の籠に入れようとし、籠の隣に置いてあったヘパリンスプレーが落ちて、押すところが破損し使用できなくなった。家族に連絡して謝罪、破棄してもよいとの返事だったが、残量が多かったため、自宅に使用済みのボトルがあるとのことで、詰め替えて使用することを提案した。
改善策	浴室に薬液を持ち込むときには、プラスチックの籠に入れて落ちないようにする。

7. 地域への情報提供

特になし

8. その他特記事項

特になし
